

■第1回日本放射光学会功劳報賞報告

藤澤正美氏（東京大学物性研究所）

松田 巖（東京大学物性研究所）

2014年1月12日(日)の日本放射光学会第27回総会にて藤澤正美氏が第1回功劳報賞を授与されました。各放射光施設、研究機関、大学に在籍する非常に多くの会員から同氏のご推薦をいただき、このたびその1人として推薦内容を紹介させていただきます。

藤澤正美氏は1975年3月に東京大学物性研究所入所し、1981年4月に同所附属軌道放射物性研究施設（現在：附属極限コヒーレント光科学研究センター（LASOR）軌道放射物性研究施設）に配置換えをしてから現在までの32年間に渡って、放射光科学に不可欠なビームラインの研究及び技術開発をSOR-Ring, Photon Factory, SPring-8, UVSOR 放射光施設にて従事してこられました。

藤澤氏は1997年までSOR-RINGの運転、ビームライン全般の維持、改良に携わり、そして主に、BL-1でセヤーナミオカ型分光器のon-line化、基本的な分光測定装置の製作、立ち上げ、維持に従事されました。1986年からはPhoton Factory BL-18A, BL-19でのビームラインの建設作業に携わり、主にBL-19Bの分光器の設計と立ち上げを行われました。そして本年2014年のBL-18A, BL-19の廃止に至るまでその維持・管理にも貢献してまいりました。SPring-8では1995年からSPring-8 BL-25, 2008年からはSPring-8 BL07LSUでのビームライン建設作業に携わり、ビームライン分光器や集光鏡システムの設計や製作、

偏光解析装置の立ち上げを行われました。そして昨年(2013年)もUVSOR BL5Uのビームライン分光器の建設に携わり、主に設計を担当されました。

藤澤氏が4つの放射光施設で設計・建設してきたこれら真空紫外・軟X線ビームラインにおいて、これまで数多くの研究者が放射光実験を実施してきました。そして我々が各ビームタイムにおいて着実に研究成果を上げることができたのは、影で支えとなってくれた同氏の高い技術と努力のおかげであります。そこで我々は藤澤氏に深い感謝と尊敬の意を示すと共に、このたび第1回功劳報賞として推薦させていただきました。

尚、藤澤氏はこれまでの業績におごることなく現在もこれまでのビームライン技術を活かして超短パルス軟X線の分光器の設計、製作及び開発に取り組んでおられます。また、同氏は培った技術を次世代に伝えることも大事に考えておられます。放射光科学の未来のために、我々は同氏の今後の活躍と指導に期待せずにはられません。



写真1 藤澤正美氏（2014年1月12日、第27回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 懇親会での受賞スピーチ）



写真2 日本放射光学会第27回総会での授与式の様子。村上会長から藤澤正美氏へ賞状が授与されました。（2014年1月12日、広島大学国際会議場）

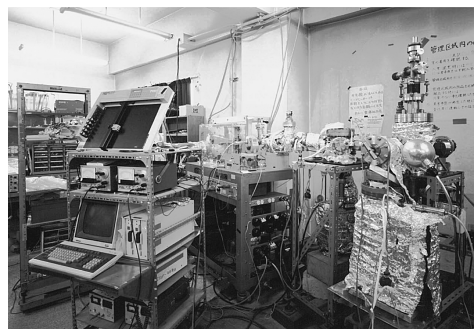


写真3 藤澤正美氏がSOR-Ring BL-1にて最初に立ち上げた分光測定装置